

奈良県スポーツ推進審議会第2回定例会 議事録

- 1 **開催日時** 平成26年1月30日（木）14時00分～15時30分
- 2 **開催場所** 奈良県文化会館地下1階多目的室
- 3 **出席委員** 佐久間春夫会長、根木慎志副会長、笠次良爾委員、角谷喜一郎委員、川崎香織委員、高柳忠夫委員、辰野勇委員、並河健委員、稗田甲二委員、福井基雄委員、横山文人委員（会長・副会長除き50音順）
- 4 **欠席委員** 朝原宣治委員、泉本憲人委員、細川伸二委員、牧川優委員（50音順）
- 5 **議事概要** 次のとおり

[司会] 開会の辞

[荒井知事]

奈良県のテーマで、スポーツ・運動を推進したいという思いを込め、議会から意見を伺うと共に、より広く審議会、関係者の皆様の意見を伺って、県のすべきことを安定して進めたいという思いから、開催している審議会でございます。

そのスタートには、奈良はスポーツのレベルが量・質ともに遅れているんじゃないか、という思いがありました。今に至っても、その思いはあるのですが、県のスポーツがどのように遅れているか、どのようにこれから振興していけば良いのかについて検討し、スポーツ振興のため、今後、行うべき分野は広いという思いを基本的に持ちながら、この協議を進めていきたい、希望を持って進めていきたいと考えております。

実際には、現状はそれ程悪い状態ではないと考えていますが、改善すべきところは結構目につくものです。逆に言えば、今後、やりがいのある分野と考えています。

皆様におかれましては、是非、心を合わせて、県のスポーツが力強く進められるように、推進力となっていただけますように、議論をお願いしたいと考えております。本日もよろしくお願いたします。

[並河委員]

今回から委員として出席させていただきます並河です。

昨年10月に天理市長に就任させていただきました。今回は市長会を代表して参加させ

ていただいております。前市長に引き続きまして、よろしく申し上げます。

まさに、東京オリンピック・パラリンピックも決まり、その前年にはラグビーのワールドカップも開催されます。奈良で育ったアスリートが活躍するということは、県のスポーツに非常に夢を与えてくれると思います。

また、これらのキャンプ地の誘致ということもあります。更には、スポーツをより多くの方に楽しんでいただくということが、スポーツにとどまらず教育、福祉、介護予防という観点からも重要であり、これが財政問題につながっていくとの観点もあります。

このように捉え、元来、天理市もスポーツが非常に盛んな市でございますが、更にスポーツの裾野を広げていきたいと努力しているところです。

県全体のスポーツ振興にも貢献できるよう、がんばっていきたくと思っております。よろしく申し上げます。

【角谷委員】

野迫川村長の角谷でございます。

野迫川村は、吊り橋や温泉の掛け流しで有名な十津川村、真言宗総本山の大江町、ちょうどその間に位置する小さな村でございます。今、人口480人になりました。毎年10人亡くなって1人生まれる、そういう村です。

台風12号による大水害で、野迫川村も大きな被害を受けました。国や県の力添えを得て、現在、復興復旧に取り組んでいるところでございます。

今年度、奈良県初のプロバスケットボールチーム、バンビシャス奈良の試合観戦への招待を受け、昨年12月に橿原公苑第1体育館で村民約50人と一緒に観戦させていただきました。村民も目前でプロの試合を観る経験は初めてで、その後も継続して観戦し、ファンになった者も多いと聞いております。

スポーツを行う方々は当然、観戦する方々の心も熱くするものだと思っております。今後も、スポーツを村の復興にもつなげていきたいと考えております。どうぞよろしく申し上げます。

【司会】 会議、議事録等の公開についての説明。議長である佐久間会長へ議事引継

【佐久間会長】

皆様、こんにちは。2年目で、おそらくこのメンバーで最後の会議になると思います。この間、いろいろなお知恵をお借りしまして、スポーツの推進に係る基本戦略、行動計画を進めて参りました。

今日は、それを元にして審議、ご意見いただきたいと思っております。

先程、荒井知事が「やりがいのある分野である」と言われましたけれども、オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定したとき、社会の倦怠感が一掃されたように、明るさが増したように感じました。

まさに、スポーツは、勇気、希望、感動、夢を与えてくれる。そのような意味で、本当にやりがいのある分野だと感じています。

特にスポーツ基本法では、スポーツの推進が自治体の責務であるという非常に強い言葉で規定されていますが、是非、我々もそれに向けて努力しなければならないと思います。

早速ではございますが、審議に入りたいと思います。

議事録署名委員につきましては、根木委員と福井委員でお願いしたいと考えております。よろしいでしょうか。（異議なし）

それでは、事務局から議案について一括して、説明いただきたいと思います。

【事務局 議案説明】 資料に基づき、一括説明

【佐久間会長】

ご説明ありがとうございました。スポーツのハードからソフトまで、施策的には幅広く色々要約されておりました。これにつきまして、各委員のご意見等を頂戴したいと思います。

平成25年度の施策については、かなり順調に進んでいると思いますが、平成26年度の事業案などについて、別の観点から、異なった内容も考えられるのではないかなど、委員のご発言いただきたいと思います。

【事務局 補足説明】

まず一つは、『誰もが、いつでも、どこでもスポーツを楽しむことができる環境づくり』に関連して、総合型の地域スポーツクラブの設立・育成支援に力を注いでまいりました。数年前と比べると、格段に、その数は上昇していますが、地域で気軽に参加できる環境をつくるため、もう少ししっかりしなければならないと思います。今後は、総合型地域スポーツクラブの活動面についても、しっかりと充実を図っていく、会員を獲得して、クラブの安定的な運営を支援していく必要があると考えています。

【川崎委員】

総合型地域スポーツクラブと学校の連携について、伺わせていただきたいのですが、資料には、学校部活動と総合型地域スポーツクラブの交流事業、学校の部活動にスポーツ指導者の派遣を実施するということが記載してありました。最終的に、社会教育と学校教育ということで両者に違いはあるのですが、この部分について、どのような折り合いをつけていくのか、県の最終目標はあるのでしょうか。

私の中では、学校の先生は普段大変忙しいので、部活動を総合型地域スポーツクラブが支援して、学校がこの部分を削ぐことができる、そういった深いところまで検討し、最終目標をもっておられるのか聞いてみたいと思います。

【事務局 補足説明】

総合型地域スポーツクラブに係る事業の取り組みにつきましては、実は、地域の教育力サミットの部会でも議論しております。まさしく委員がおっしゃったように、どこまで可能か、理想は高いところまで持っているのですが、現実にはいろいろな問題があり困難な部分もあるかもしれない、ということでございます。

実施していこうとする事業は、ある意味モデル事業でありまして、どこまでできるか、踏み込んだところまで可能なのか、あるいは不可能なら、その理由は何なのか、というところをしっかりと突き詰めていきたいと考えています。

【荒井知事】

総合型地域スポーツクラブの活動をどう整理するかということは、審議の中の大きな事項であると考え、着目しております。

本県の総合型地域スポーツクラブの数は、全国で一番少なかった。なぜ、一番少ないのか。その議論から、スポーツ推進審議会の議論は始まったとも言えます。一方、奈良のスポーツの状況、小中高の生徒の体力は日本で最も低いレベルのランクにあるのは、どうしてなのかということが、そもそもの動機、出発点です。

総合型地域スポーツクラブの活動をもっと支援するのが1つの道じゃないか。実際にクラブに優秀なリーダーのいるところは、全国でもトップクラスのチームになっているという事実もあります。学校だけでチームは編成できるが、卒業したら、その選手がどこに帰属するかわからないということもある反面、総合型地域スポーツクラブは、その活動する場所があり、学校を卒業しても一緒にチームメイトがいる。また、良い指導者のいるクラブは非常に良い状態になっている。

学齢期の人のスポーツの体験、また、その場所は、学校から総合型地域スポーツクラブにシフトできれば良いのではないかと、一つのポイントだと考えています。

もう一つは、学校の生徒ばかりがスポーツを行う対象ではなく、家庭の主婦、高齢者、障害者など、いろいろな社会の人がもっとスポーツを楽しむことができればという観点から、障害者やシニアのスポーツ大会も開催していこうと考えています。

これらについては、学校の先生では、なかなかできない分野だと思っています。本県でも、スポーツ振興課を知事部局に設置して、奈良マラソンが開催できるようになったと思います。奈良マラソンについては、今後も発展させていきたいと考えています。

さらに、もう一つは、学校の先生は、体育の部活で忙しい、それをどのようにするか、

学校の課題があるわけですが、それなら学校で保健体育はいらぬのかというと、そうでもない。教育委員会にお願いしていますが、小中学生の体力をどうにか向上してほしい、全般に体力を強化をしてほしい、しかし、以前と比べてもなかなか良くなってこない。それを克服して欲しい。

学校の名をあげるために、その学校のチームを全国一にするというのは、ある種、学校の目的なのかもしれませんが、それでは全生徒に行き渡らない。全国一を目指すことは良いのですが、体育は学校で進展させていかなければならない。

4つめの点は、体育協会のあり方について。これは知事部局が関与している点ですが、県の競技団体が自律的に競技能力の向上、競技の開催できる能力があるかといえば、なかなかそのようにはなっていない。本県の体育協会も日本オリンピック協会のように、競技団体をどうやって伸ばすかという目標があって、それに基づいて、本県の国体での順位を向上させていくということが必要となるのではないかと思います。ただ、本県の国体の順位を上昇させること自体にどのような意義があるのかについて、根本に立ち返って、議論が必要であり、この審議会でも議論いただきたいと考えています。

総合型地域スポーツクラブを学校区域ごとに併設して、学校部活動での参加人数が少ないような場合には、総合型地域スポーツクラブで活動するというように、学校部活動と総合型地域スポーツクラブによるクラブ活動は、補完的な関係にあるように思います。

ただ、総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツでは、学校スポーツと異なり、父兄の付き添いがないとなかなか成り立たないように思いますし、経済的負担にもなる。現実には、父兄のサポートとリーダーがいるとすごく生き生きしてくるというのが実情です。クラブスポーツと保健体育は質が違い、今後どうやって折り合うのかというのが課題であると考えています。今、折り合うと言いましたが、それぞれに頑張ってもらいたい。質が違うように、それぞれの課題があるように思っています。

いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境づくりとして、生涯スポーツのリーダーとして、総合型地域スポーツクラブのリーダーの活躍が期待されています。施設がないという問題もありますが、まず、リーダーが必要なのではないかと、総合型地域スポーツクラブを伸ばすという観点からは、リーダーの育成が必要であると思っています。

【笠次委員】

保健体育については、非常に責任を感じております。学校の先生の責任、まさにそのとおりだなと感じております。そのため奈良教育大で、今、課題としてあがっていた学校体育、社会体育という両者の連携について研究しております。総合型地域スポーツクラブを利用しての新しい取り組みはすごく良いとは思いますが、両者はそのベクトルが違います。

学校体育においては、スポーツ嫌いな子もいれば好きな子もいる。その両方を対象としている。社会体育においてはスポーツの好きな子ばかりが集まってくる。それぞれ目指す

ものが違う。

学校体育を教えている先生が、社会体育の指導者が持っているノウハウを十分に持っていないという部分が問題になっていると感じています。この両者をつなぐことが、この審議会のキーワードであって、総合型地域スポーツクラブに限らず、もっと間口を広げて、競技スポーツの指導者など、それぞれの分野でのエキスパートを学校に紹介するなど、うまく連携させていくことが重要で、総合型地域スポーツクラブが起爆剤になればいいなと思っています。

現在、公益財団法人日本体育協会の研究チームで、子どもの体力向上を図るだけではなく、規範意識や社会性を育む、また、怪我の予防など、単に子どもたちの体力を上げることだけに着目するのではなく、元気で社会に貢献できる子どもたちを育てることを目指したプロジェクトを進めているところです。

このプロジェクトの一つのキーワードとして「仕掛け」を挙げています。総合型地域スポーツクラブの指導者が学校において「仕掛け」る人になり、学校の運動部活動に限らず、放課後教室などに指導者を招く。このように、いろいろなやり方で学校体育と社会体育を「つないでいく」ということが我々の計画の推進の中で考えていくべきことだと感じています。そうすると、既存のいろいろなノウハウを共有することができるのではないのでしょうか。

【横山委員】

新規事業について、総合型と学校が連携するプロジェクトはすばらしい。これは、ソフト面と体制の連携の問題であると思います。

計画では、10年後に、総合型地域スポーツクラブを150団体組織し、会員数を70,000人にすることを目標としていますが、単純に計算すると1クラブ当たり500人くらいの会員が、そこで運動していただく計算になる。その場合、会員が集う拠点、いわゆるクラブハウスなどの設置が不可欠で、このような施設がないと、その500人をうまく管理したり、指導したりすることが困難になる。

クラブハウスの整備については、ハードの話に関わり、計画では「スポーツ環境の整備」の戦略の位置付けになると思いますが、クラブハウスを学校との連携も含めながら、整備していけるような事業立てができれば良いのではないのでしょうか。それができれば、総合型スポーツクラブの数を増加させ、計画の目標を達成させやすくなると思われま

す。総合型地域スポーツクラブの会員を増加させ、会員を集めるためには、基本的に2種類の人が必要となります。クラブのマネジメントができる人、もう一種はコーチ・指導者。この2つのタイプの人を養成しないとクラブの存続は難しいと思います。

【荒井知事】

奈良におけるスポーツ全般の進め方については、いろいろな意見があると思います。笠次

委員、横山委員の意見にも関係もすると思われませんが、総合型地域スポーツクラブをどのようなイメージで発展させれば、良いものになっていくのかということの検討が必要です。何百人も一緒に同じスポーツを行うことは滅多にないでしょうから、年代や行う種目が異なる多様な人がその地域の総合型地域スポーツクラブに登録し、それぞれ活動しているというのが現実のクラブの姿です。その活動が盛んになるか否かは、リーダーの資質によるところが大きく、その力がクラブを支えているものと考えています。

そのリーダーはどういう人であるべきか、趣味だけで活動するとなると負担が大きい。学校の先生が地域スポーツのリーダーになる場合もあるが、町の商店の人や地元のアスリートがリーダーになり、その職の確立、プロのスポーツリーダーにできるかが重要です。このリーダーの問題が施設などハードを整備する以前の最も大事な課題だと思います。

リーダーはどのような人で、持続力があるか、その能力・質・コーチ力・マネジメント力を有することが必要。大事なのは、クラブの会員を集める力です。また、マネジメント力があれば、地域で総合型地域スポーツクラブは継続して活動していけると思います。

ところで、地域のスポーツリーダーを学校に連れて行けば、それで全てがうまくいくのか、というものの疑問に感じています。スポーツリーダーに協調性があるのか、競技団体のリーダーたちの話を聞いていても、スポーツの今後については話し合うことがないように思われます。どのようにアスリートを育成していこうかなど、異なるスポーツリーダー間で協調性を持って、進めていっていただきたいと願っています。

【辰野委員】

アウトドア、レジャースポーツの事例が参考になるかわかりませんが、競技スポーツにおいても指導者養成は重要だと思います。

カヌーで言えば、連盟のミッションは、評判を上げることに尽きます。一所懸命に活動しているのですが、これまで裾野の拡充ができていませんでした。裾野の拡充を行わないと、いわゆるピラミッドの頂点ばかり一生懸命突き上げて、あとがついてこない。

このことから、47都道府県にあるカヌー協会とは別に48番目にレクリエーションカヌー協会を正式に協会として立ち上げました。その会長として、指導者をつくることに取り組んでいます。

例えば、文部科学省所管で、カヌーもある、フィールドもあるすばらしいロケーションの施設があるんですが、指導者がいない。そこで、活動する方々に、あなた教えていいですよ、というライセンスを発行するところから始めました。指導といっても、そんな難しいことを教えるのではない、基本的なことを教えることができれば、ライセンスを発行するスキームを作りました。結局は、持続的に運営していけるのが重要です。ボランティアでは、どこかに限界がある。このことから、ビジネスとして、カヌーを教えてくださいということを実施しています。

やはり、ビジネスとなれば、一生懸命になる。ライセンスを取って、スキルアップが必要になる。将来アスリートになるというような目標もいいが、ライセンス1つ持っているだけで就職が非常に有利になるとか、アルバイトもできるというようなことが動機付けになり、裾野は広がっていくのではないかと考えています。

施設の話が出たのですが、榎原公苑ジョギング&サイクリングステーションは、行政の施設ですが、これは運営のために多くの費用が必要となります。いつまで継続して運営していけるかということについては、少し懸念するところです。

運営のための予算がある間はいいのですが、何らかの形でその予算が消えた場合、とたんに機能しなくなってしまう。今、全国でそのような施設が沢山ある。その施設自身で自立できるスキルがないと、行政の力だけで、今後持続していけるかということを考えると、全く批判しているわけではないのですが、大変だなと思います。

「SEA TO SUMMIT」というイベントを5年前から開催しています。自転車、カヌー、登山の大会なんですけど、年に1回の開催です。この年に1回の開催を通じて、365日このような活動ができる環境にしましょう、ということを目指して開催しています。

そのなかで、ジャパンエコトラックという概念で、要するに、自転車とカヌー、ハイキング・ウォーキングをミックスして人力だけで旅をするというものがあります。そのステーションには、自転車が置いて、パンク修理もできる、そこに情報もあり、サービスの提供も受けられるような全てが集約された環境です。そこにお客が入ることで喫茶店にも入るし、サービスの提供も受けることができる。このようにビジネスも含めて、自己完結できるスキームにしていけないと持続していけないと考えています。

[佐久間会長]

まさに、施設の運営では財政的な自立を考えなければならない。この点、指導者の養成が最も重要になってきます。指導者の人材指導者の問題では、今後、総合型地域スポーツクラブチームの指導者が中心になる。学校の体育の教員の役割は、運動の楽しさを教えることで、スポーツの技術面については総合型地域スポーツクラブの指導者が担うような棲み分けができてくるのではないかと考えています。

[根木副会長]

先日、国際パラリンピック委員会の委員が話されたことがすごく印象に残ったので、まず紹介させていただきたいと思います。

「国際パラリンピック委員会は、社会慈善活動でパラリンピックを開催するのではなく、オリンピック、サッカーのFIFAワールドカップに次いで世界で3番目に大きいスポーツの大会を開催する。世界で48億人の方が見ている大会である。障害者アスリートが最高のパフォーマンスを提供することによって、それを見た人々が人間の可能性を知るのだ」とい

うことを、まず言われました。

それは、みんなで大会をつくり上げていこう。あと6年しかない。2020年、日本の社会は変わるが、放置して勝手に変わるものではなく、その準備などでしっかりチャレンジする必要があるという趣旨の発言でした。

90パーセントは、オリンピックとパラリンピックはまったく一緒。しかし、残りの10パーセントは明らかに違う。だから、オリンピックと同じことをしていても、パラリンピックは、オリンピックのように実施できない。そこの差異をしっかり考えてください、と言われ、私自身考えさせられました。

障害者スポーツという観点から新規事業をみると、県内の障害者スポーツの拠点である心身障害者福祉センターにおける施設、備品等の整備に関して言及したいと思います。当然、整備いただくのはありがたいのですが、皆にもっと障害者スポーツを知ってほしいというのが一番の願望です。そのためにも、障害者スポーツの出前事業のようなものを、実施していく必要があると思います。奈良県では、私が知る限り、そのような動きはあまりないのかなと思っています。

本日の午前中も、奈良市の若草中学校で講演会を行ってきたところで、このほか年間に100回ぐらい学校で講演をしています。そこでは、車いすバスケットボールというものを活用して、スポーツのすばらしさや地域の障害者への理解について話をしています。この中で、2020東京オリンピック・パラリンピックという、1つのゴールが見えている今、皆の気持ちも全然変わってきているということを感じています。

パラリンピックの開催に向け、指導員も必要になるし、それよりもまず、そのスポーツを知ってもらうことに力を入れる必要があると感じました。このことから、障害者スポーツを多くの人々に知ってもらう施策を実施いただければありがたいと感じています。

障害者スポーツを身近に体験するためには、人に来ていただく必要があると思います。心身障害者福祉センターでも、長年ずっと来られている方ばかりでなく、新規の方々が新たに運動されているという感じになれば、すばらしい。これには、新しい型を取り入れ、どんどん来たくくなるような仕組みをつくらなければ、底辺の広がりにはつながっていかないのかなと考えています。

【高柳委員】

知事が発言された事項について、本当にそのとおりだなと感じています。

学校体育と地域のスポーツクラブの関連について、学校はこれまでその課題で苦労されているし、地域のスポーツクラブには、参加したくてもできない子ども達が存在する事実もある。難しい課題であり、今後も引き続き検討していかなければなりません。先程、委員の発言にあった「学校はスポーツの楽しさをきちっと押さえる」ことと、その中で地域の子ども達に1位をとる楽しさ、醍醐味を教えるということの両者をマッチングさせるの

は相当難しいし、現場も苦勞するのではないかと感じています。

子供の人格を形成するときに、学力とスポーツは、どちらがベクトルとしては大きいのか、小さいのか、それとも平等なのか、その辺の交通整理は、今後もしていく必要があるのではないのでしょうか。

学校現場でよく見かけるのですが、定時制学校の子ども達は仕事をして、時間もないと思われるのに、ずっとバスケットボールに親しんでいる。仕事をして、学校にも来て、そしてスポーツをする。それがスポーツの楽しさだと思う。このような風景を見ていたら、地域で学校の代わりなんて、簡単に言っても良いのかなと感じることもあります。

基本的に、子ども達のスポーツは地域でみていくんだというのはその通りなんですけど、学校でもその役割が果たせるということは、すごく伝わってきている。この問題については、価値観がすれ違う部分でもあるので、この部分に力を入れ、検討を続けることは重要であると感じています。

【並河委員】

新規事業についてコメントさせていただきますと、大学生による幼児スポーツ教室の開催事業に関連し、「だれもがいつでも楽しめるスポーツ」という部分と、これに関わっていく大学生の役割は非常に重要だと感じます。

本市は、天理大学だけでなく、スポーツに関する特色ある学科を持つ県立添上高等学校があります。今、学生は、子ども、高齢者など、多世代間の交流で非常に重要な役割を果たしつつあります。この事業を積極的に実施していくことで、子どもや高齢者など、学生を迎え入れる側が喜ぶだけでなく、学生も地域で貢献する楽しさを学生時代から味わうことができ、非常にすばらしいものです。それが、ひいては今抱えている多様な課題の解決につながっていくと考えています。是非、学生が地域の様々なスポーツに関わっていくことを積極的に実施していただきたいです。

そのほか、全く違う観点ですが、スポーツを観光と結びつけて、地域の活性化にも役立てていただきたい。奈良の魅力は歴史、文化遺産、自然が豊かで、その中でスポーツを楽しむという非常に特色のあるところだと思います。歴史好きな方々に奈良に来ていただける。この流れは非常に大きく重要な部分ですが、他とは異なる環境の中でスポーツを楽しむ場所という入口から様々な興味・関心に広がっていく、ということになればありがたいなと思っています。

今、計画では南部地域などが注視されていますが、本市も山の辺の道などがあり、是非、様々な観光資源とスポーツを結びつけることを積極的にやっていただきたいと思います。

最後に、東京オリンピック・パラリンピックの開催に関連して、アスリートを育てていく場所が東京一極集中でいいのか、どんどん競技力の強い人が施設が整っている東京に集まっていく現実があるのですが、やはりその中でまだニッチがあるのではないかと思います。

す。

これについては、今後、国立スポーツ科学センターなどにも意見を聞かないといけません。トップアスリートが奈良で育って、その方々がオリンピック・パラリンピックで活躍するという姿が、将来的には奈良のスポーツの質を向上させることに大きな役割を果たします。その観点からすれば、どのような競技になるのか今後調整は必要ですが、地域トレーニングセンターを奈良でつくり、奈良で自分自身のスキルを高めたい人が出てくる。また、地域トレーニングセンターでスポーツ医科学など、スポーツと他分野とのつながりを拡充していければ、すばらしいと思います。

このトレーニングセンターを県で着実に推進していただきたいと考えています。

[佐久間会長]

スポーツの公用化の問題に関わってくるかと思いますが、本県でどの競技を特化していくのか、これについても本県の地の利等についても見据え、検討を進めなければならない問題だと思います。

[稗田委員]

スポーツの大きな4つのテーマについて、基本戦略に基づいてよくまとめていただいていると思います。

特に基本戦略の3の「憧れ感動のスポーツ」については、平成26年度の新規事業で8項目、前年度に比較して増えています。これは、東京オリンピック・パラリンピック決定の影響があるものだと思います。

その中でも、トップアスリートの育成、地域トレーニングセンター基本構想の策定、ラグビーワールドカップ・東京五輪のキャンプ地招致準備、この3点について、特に力を入れて行っていただきたい。あと6年しかありませんので、具体的なアクションプランを作っていて早急に着手して行ってほしいと思っています。

[福井委員]

県内の総合型地域スポーツクラブも非常に盛り上がり、現在、その数も56まで伸びました。これも知事、市町村長をはじめ、関係者各位の方々のご尽力の賜と感謝しているところです。

現在、本県のスポーツ界では体育協会、スポーツ推進委員という2つの組織・人が中心の役割を担っております。この中に総合型地域スポーツクラブが加わってくるのが本来の姿ではないかと考えています。

総合型地域スポーツクラブがうまく機能している生駒市、桜井市、吉野町の事例を挙げると、スポーツリーダーが優れている点や、各小学校地域における学校が協力的な点があ

ると思います。桜井市においては、今後は、中学校との連携も考えていますし、総合型地域スポーツクラブは、多世代多種目が特色ですので、競技力の強化のほか、生涯スポーツについても積極的に取り組んでいます。

今後、どういう形で奈良県に150のクラブを作るかという大きな課題がありますが、積極的に関わっていきたいと考えています。

【角谷委員】

総合型地域スポーツクラブに参加しにくい子どもがいるということを知ると、まさに野迫川村の事例になるのかなと思います。ただ、野迫川村でも総合型地域スポーツクラブが中心となって、フットサルなどを行っています。

学校の先生は、教員であり、青年団員であり、地域のスポーツ少年団の指導者でありという多くの役割を担っていただいております。その先生が得意なスポーツがあれば、子どもの競技力も伸びていくという現実があります。

スポーツにおいて、勝負にこだわるかどうかについては、先程から議論になっておりますが、勝つ喜び・楽しさはスポーツの力が伸びる一つの要素だと思います。オリンピック・パラリンピックでメダルを取れば国民が喜ぶますし、自己を高め、達成感を得るためには、勝つか負けるかにこだわり、努力することも重要であると考えます。

ただ、野迫川村の現状では、団体戦をしてもチームを組まず、子ども達は、団体戦の勝ちの喜びを味わうことができない。個人戦でしか参加できない。そのような選択肢がない地域があるということは、是非知っておいていただきたいと思います。

野迫川村でも、家族が街に出るときに、子どもをスポーツクラブに参加させているということもあります。例えば、五條市の学校で行うスポーツであれば参加できなかったが、五條市の総合型地域スポーツクラブであれば受け入れてもらえる。そのようなことから言えば、総合型地域スポーツクラブがあるのはありがたいことですし、小さい村であってもいろいろな工夫をして、子ども達にスポーツに取り組んでいただきたいと考えています。

子ども駅伝大会についても、人数が足りずにチームを組まず、正式な駅伝には参加できていません。しかし、タイムトライアルレースというカテゴリーをつくっていただき、子ども達が参加できるようにしていただいている。このように、いろいろな工夫があれば、スポーツに参加できるようになると思います。

野迫川村の子どもは、15の春に村外へ出ます。そのときに、クラブでスポーツに取り組んでいれば友達がいる。先に友達とふれ合うことができていることは、大変心強いところで、スポーツのおかげと感じています。

今後も、このような小さい村の現状について、審議会に取り上げていただければ、大変ありがたいと思います。

〔荒井知事〕

いつもながら貴重な意見ありがとうございます。議論するためには刺激し、また、意見をよく聴くことが重要だと認識しております。委員各位のご意見を受け、感想を述べさせていただきます。

まず、学校体育と地域スポーツの関連、特に指導者の連携は、課題と認識しております。学校の先生の人的な限界、すなわち、先生方は大変忙しいと聞いておりますし、学生は卒業していくという制度的な問題もあります。

次に、運動神経を発達させるためには、就学前の幼児期における運動が重要と言われております。これに関連し、就学前の幼児達のスポーツ環境については大変気にしているところです。大学生による幼児のためのスポーツ教室については、まだ制度としては確立していませんが、引き続き注目していきたいと考えています。

また、スポーツ活動の持続力はとても大事です。行政だけで、これを持続させていけるのかについては、なかなか問題があるところと認識しています。

本県で言えば、スイムピア奈良についてはPFI制度により民間の力を活用し、整備・運営しているところであって、県の負担はかなり少額なものとなっております。また、施設を指定管理者制度により運営することで、行政が運営していた場合と比べ、かなり多くの集客が図れている事例があると聞き及んでおります。さらに、旧志貴高校のグラウンドについて、toto（日本スポーツ振興センター）からの助成をいただきつつ、県が整備し、サッカー協会が活用している事例もございます。

県有地について県が整備を行うが、その維持・管理は民間が行うのが望ましい。そうすればスポーツの持続力も増し、施設の運営・サービスも良くなるでしょう。人件費が公的なものであれば、サービスも悪くなりがちです。運営について言えば、基本的には、学校から民間へ、公的なものから自己負担、自己負担でも民間との協働への流れが望ましいと考えます。本県でも、多少の成功例があるところです。

県有資産については、行政ができるだけ投資し整備して、スポーツに利用していただきたい。その反面、維持・運営は、民間のノウハウをできるだけ導入できたほうが良い。

人材については、コーチングのレベルが高い人の育成が重要であると考えています。レベルが高い人を育成、確保していかなければなりません。先生であり、リーダーである人に公務員を充てるのかは思案すべきところであって、それより、良い人材をクラブが雇い、その給料を民間が集めるなど、お互いが支え合っていくことが必要であると考えています。それぞれの負担、投資があって、盛り上がっていくのがプロスポーツの育成なのではないでしょうか。その方向で進めていくには、奈良県ではまだまだ、盛り上がり方が足りないとも感じています。

最後に、地域トレーニングセンターについては、是非整備したい。熱心に取り組んでい

きたいと考えています。

【事務局 その他説明】

本年度の審議会については、本審議会を持って終了。平成24年度及び平成25年度の2箇年にわたり、計画の策定から計画の進捗の確認等まで、多くの尽力をいただいたことに関する感謝の意を表す。

【司会】 閉会の辞

以上